

招へい目的：忠南大学校との学術交流協定に基づく特別講演
“Effect of estrogenic compounds on the testis in rats”
及び研究打合せ

外国人研究者名：Sung-whan Cho

国 籍：韓国

所属機関・職名：忠南大学校獣医科大学獣医病理学講座・教授

外国人招へい申請者：松井高峯（獣医学科）

1. 目 的

韓国の忠南大学校，獣医科大学と本学獣医学科とは学術交流協定締結以来，隔年ごとの相互訪問による特別講演と研究打ち合わせを継続しておこなっている。本年は本学の招へいの当番なので以前本学に留学し免疫組織学的手法を修得した Cho 教授にその後の研究成果また韓国の獣医病理学の現況などを報告してもらうために招へいした。

2. 期 間

平成15年10月27日～平成15年10月31日

3. 場 所

帯広畜産大学

4. 内 容

農薬，殺虫剤，除草剤，消毒剤等環境中にひろく散布される多くの化学物質が「生体の恒常性，生殖あるいは行動に関与する種々の生体内ホルモンの諸過程を阻害する性質を持つ外来性の物質」すなわち内分泌攪乱化学物質として指摘され，大きな社会問題となっている。女性ホルモンであるエストロゲンはステロイドに由来し様々な物質がエストロゲン作用を持つことが想定されている。Cho 教授には「Effect of estrogenic compounds on the testis in rats」という演題で特別講演していただいた。エストロゲン様作用をもつ内分泌攪乱化学物質の胎生期・新生仔期暴露が雄性生殖器・睪丸に及ぼす影響をセルトリ細胞，精粗細胞を免疫組織学的に区別して明示された。講演は韓国語でなされたが，忠南大学よりの留学生の通訳により学生を含めた多くの聴衆に理解され，講演後の質疑応答も活発になされた。

講演後の懇談で我が国で発生した羊のスクレイピー、牛の伝達生海綿状脳症、口蹄疫などの病気について質問があり、実際に病理標本を観てもらって論議をした。こちらからは狂犬病について質問したが発生は北朝鮮との国境領域にのみ限られているとのことであった。夜は獣医学科の歓迎会を開催しました。忠南大学より本学への留学生をふくめ盛大にして和やか終始いたしました。尚韓国の学生の教官に対する態度には、このごろの日本の学生と比べると大変な驚きを感じました。

翌29日には音更の種畜牧場を見学するとともに、帯広食肉検査事務所でBSEの全頭検査の概要を説明してもらいました。30日に北大獣医学部を見学してもらい、31日に無事帰国いたしました。